



地域の明日を医療で支える
地方独立行政法人 長野県立病院機構

しらくま 



長野県立こども病院

わたし達は、未来を担うこども達のために、質が高く、安全な医療を行います。

号外
特別編
2018.3.18発行

ニュースレター



長野県立こども病院だより号外 発行日：2018年3月18日 発行者：原田 順和
〒399-8288 長野県安曇野市豊科3100 TEL0263-73-6700 FAX0263-73-5432
<http://nagano-child.jp/> ☎ kodomo@pref-nagano-hosp.jp



Contents

- ご挨拶……………1
- 新ドクターカーの紹介……………2
- この人に聞く……………4



長野県立こども病院理念

わたし達は、未来を担うこども達のために、
質が高く、安全な医療を行います。

撮影：大畑淳

ご挨拶 ～新ドクターカー「動く集中治療室」を迎えて～ 長野県立こども病院 病院長 原田順和



いよいよ、新しいドクターカーを皆様にお披露目できる日がやってきました。新しいドクターカーは、Readyforによるクラウドファンディングや、長野県みらい基金による募金、多くの企業、

お店、小中学校の生徒の皆さん、そして個人の方々からの暖かいご支援をいただき、完成しました。

ドクターカーは、年間に400件の出動をこなしながら、長野県やその周囲の地域からの重症治療を必要とするこども達を乗せて、広い地域を走り回っています。また、時には、東京や大阪などへの長距離の出動もあります。

ドクターカーには、医師と看護師が乗り込み、病気のこども達を迎えに行ったところから、すぐに治療が始まります。そのため、一般の救急

車とは異なり、必要な医療機器を積んで走っています。動く集中治療室とも言われるゆえんです。

長野県立こども病院は今年度で創立25年になりますが、この新しいドクターカーで4代目となります。その間、多くのこども達の命が、このドクターカーで運ばれ、助けられてきました。このような、多くのこども達の命を救うことのできるドクターカーが、長野県はもちろんのこと、全国各地からのご支援をいただき、新しい姿で皆様の前でお披露目できることは、とても意味のあることでもあり、また大変うれしいことです。

長野県立こども病院は多くの方々に支えていただいているということをしかりと受け止めて、これからもこども達のために、質が高く安全な医療を行ってまいりたいと思います。引き続き、皆様方からのご支援をいただければ幸いです。

間もなく役割を終えようとしている現行（3代目）のドクターカーは、日夜を問わず11年で地球11周（約43万キロメートル）を走り続けました。その間にエアサスペンションの交換やエンジンのオーバーホールなどの大修理を行ったこともありました。

時代とともに変わりゆくこども病院の果たすべき役割を意識して、ゼロベースから設計した新しいドクターカーを、現行のドクターカーとともに紹介します。

新しいドクターカーは、費用節減を厳守しつつ、以下の点を目標にして設計しました。

- 車両骨格の改造を避ける
- 患者さんや乗員の安全を確保する
- 心臓や肺の機能が極度に悪くなった時に使用する心肺補助装置を装着した状態で安全に搬送できる
- 最新の医療機器に更新する
- 災害時の診療支援に対応できる
- 車内環境を改善する

～3代目（旧）～

●レイアウト

車両の前方を新生児科のブースとして、後方を小児集中治療科のブースとして分けをしていました。車両の側方と後方から患者さんをそれぞれのブースに出し入れしますが、分けをすることで、手狭になっていました。



11年で地球11周、本当にお疲れ様でした

●新生児科のブース

助手席の後方に設置された昇降リフトを利用して赤ちゃんを乗せる保育器を出し入れします。昇降リフトを設置するために車両の車体を大改造して大開口のドアを設置しています。しかし、リフトによる段差が大きく、小さな赤ちゃんに負担がかからないよう、段差を乗り越えるのに苦労していました。

●小児集中治療科のブース

赤ちゃんから大人に近いこどもの患者さんに対応しています。幅広い年齢に対応すべく

医療機器や用具を多く取り揃えたため、物を積み込みすぎて患者さんの上に落下する心配がありました。



新生児科のブースです。車の左側から搬入します

●車体や車内の劣化

車体は、融雪剤の影響でドアの周りは錆による損傷が著しく、扉をガムテープなどで補強していました。車内は、長年蓄積された様々な臭いが染み付き、医療スタッフが臭いで車酔いを誘発されるほど環境は劣悪になっていました。



小児集中治療科のブースです。棚から物が落ちそうです

～4代目（新）～

●外観

事故防止のために夜間でもよく目立つよう、全面に光をよく反射する材料をふんだんに使用しました。側面の黄色と緑色の市松模様は、ドクターカーなどの医療用であることを強調しています（救急車は白色と赤色です）。北アルプス広域消防が積極的に提唱する、バッテンバーグマーキング（英国などで広く使用されています）といえます。



こども病院のドクターカーと一目でわかるデザインです

●レイアウト

医療スタッフは運転士を含めて6名まで乗車でき、全席前向きで3点式シートベルトを備えました。ブースの区分けを廃止して共有スペースを広くしました。また、昇降リフトによる段差が小さくなり、出し入れがスムーズになりました。壁、天井や座面には臭いがつきにくい素材を使用しました。車内や訪問先の医療機関で使用する薬剤や器具を収納するカートを配備しました。ワンタッチで外すことができ、訪問先の医療機関で使用します。



明るくさわやかな感じに仕上がりました

●搬送ベッド（ストレッチャー）

患者さんの体格に応じて新生児科用と小児集中治療科用の搬送ベッドを配備しました。それぞれの搬送ベッドに重症な患者さんに対応できる最新の医療機器をぎっしりと配置しました。集中治療室（ICU）にある機能をぎゅっと

コンパクトにしました。訪問先の医療機関で搬送ベッドに移った瞬間からICUと同等の治療が始まります。必要な機器を全て積み込んだ搬送ベッドのお陰でスペースを大幅に節約できました。このタイプの搬送ベッドを使用するのは日本では当院が初めてです。日本の医療界から大いに注目されることは間違いありません。



新生児科の搬送ベッドです



小児集中治療科の搬送ベッドです

～～開院当初からドクターカーを見守って～～

今回、特別編として開院当初からドクターカーに関わっている、こども病院副院長で新生児科医の中村友彦先生にドクターカーにまつわるお話を伺いました。

～ドクターカーの活躍はどこまでも～

編) 当院のドクターカーは全国のこども病院では先駆けて、多くの病院が当院のドクターカーを参考にしたそうです。伝統ある当院のドクターカーについていかがですか？

中) 開院以来3代のドクターカーで約8万人の新生児や小児を日夜を問わず絶え間なく搬送し続けたドクターカーが4代目に引き継がれるとは本当に嬉しく、感慨深いです。重症の新生児や小児を搬送できるドクターカーは現在でも全国に52台しかありません。こども病院の顔としてこども達の命を守り続けて欲しいです。

～初めての病院間搬送～

編) 先生は開院当初からドクターカーに関わっておられます。ドクターカーによる初めての病院間搬送はいかがでしたか？

中) 平成5年(1993年)5月25日にこども病院が開院しましたが、その日の朝に完成して間もない初代のドクターカーに乗って飯田市立病院へ向かいました。気道に先天性の病気がある患者さんで広域消防局の救急車では搬送できませんでしたので、ドクターカーの完成を待って搬送することになりました。その時は、川勝岳夫初代院長や田村正徳初代新生児科部長



何時でもどこにでも患者さんを救うために駆けつけます

に正面玄関から見送られながら出発しましたが、あの時の興奮は今でも忘れられません。帰院したときには沢山のテレビ局のカメラが待っていて驚きました。

～一刻も気が抜けない新生児の病院間搬送～

編) 体重が1000グラムに満たない小さい赤ちゃん(超低出生体重児)の病院間搬送は特に大変だったのではありませんか？

中) 一番気を使ったのは体温の維持でした。寒い冬での氷点下の移動は特に大変でした。また、振動にも注意しました。脳の血管が脆弱な新生児はわずかな振動でも血管が破けてしまうので細心の注意を払いました。運転手さんも気遣ってくれ、患者さんを収容した後は揺れが少ないよう慎重にしてくれていたのだと思います。医師と看護師は患者さんに向かって横向きに座るために車酔いしやすく、搬送から帰ると緊張から解放されて控え室で寝込む者もいました。

～新生児や乳児の死亡率を劇的に改善～

編) どのような経緯でこども病院にドクターカーが導入されたのでしょうか？

中) こども病院が開院した当時は産科がなく、新生児の患者さんは全て他院からドクターカーで搬送していました。新生児医療の集約化が言われ始めていましたが、長野県は全国で4番目に広く、遠方より重症な新生児を搬送するには高度な医療機器を備えた専用の救急車が必要でした。こども病院が開院する前は全国平均より悪かった長野県の新生児や乳児の死亡率が開院後に劇的に良くなったことにドクターカーが貢献していることは間違いありません。

最後に、わずか3名交代で24時間365日、25年間にわたってドクターカーを運転し続けてくれた運転手さんに感謝します。これからも安全運転でよろしくをお願いします。

編) ありがとうございました。